社会メディア総合研究所
石黒浩特別研究室

人の存在を伝達する携帯型遠隔操作アンドロイドの研究開発

背景と目的

本研究は、何時でも何処でも人間の存在を伝達することができる通信手段として、携帯電話サイズの遠隔操作型アンドロイドを実現します。これによりユーザは遠隔地に自らの存在を送り、遠隔地にいる対話相手はユーザの存在を目の前に感じながら人と話すように対話できるようになります。携帯型遠隔操作アンドロイドは、パソコンや携帯電話に加えて、人と情報環境を調和させる新しい情報メディアとなります。

特長

携帯型遠隔操作アンドロイドのデザインは、人間としての必要最低限の見かけと動きの要素だけからなる、人間のミニマルデザインを採用します。このデザインは一目で人間であると認識できる最低限の見かけを持つとともに、男性とも女性とも、高齢者とも幼児とも判別できない見かけとなっているので、効果的に存在感を伝えることができます。

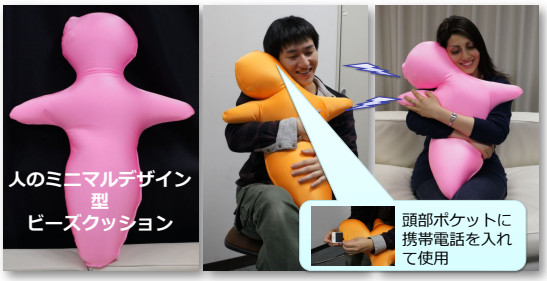
携帯型遠隔操作アンドロイドは、携帯電話を越えた新しいメディアとなるとともに、パソコンや携帯電話で私たちの生活スタイルが大きく変わったように、それによって拡張される人間や人間社会の新たな可能性を探究することができます。

今後の予定

- 見かけ、素材（触感）、動き（センサや音声の非言語情報）を基に、存在感を効果的に伝えるミニマルデザインを探究します。
- 心理学的、認知科学的な存在感を計る指標を構築します。
- これまでに開発した遠隔操作型アンドロイド「テレノイドR2」，「エルフォイドP1」，存在感伝達メディア「ハグビー」を用いて、新たなメディアへの人々の適応性や新たなコミュニケーションスタイルを見出します。

テレノイドR2

エルフォイドP1



抱く効果に注目した存在感伝達メディア「ハグビー」

連絡先：石黒浩特別研究室　担当　港隆史　E-Mail：hil-contact@atr.jp
本研究はJST、CRESTの委託により実施したものです。